

科目	都市交通計画学 (Traffic Planning Engineering)		
担当教員	日下部 重幸		
対象学年等	都市工学科・5年・後期・必修・1単位		
学習・教育目標	工学複合プログラム	A4-1(85%) A4-4(15%)	JABEE基準1(1) (d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	主として道路関係について学習させる。まず道路の社会的役割について認識を深めさせ、次に道路の新設・改修に当たっての調査・計画および計算方法を習得させる。さらに、基礎知識を基に道路構造令に即した計画、施工、管理に関する事項を習得させる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-1】道路に関する技術用語を理解し、それらを他者に説明できる。		道路に関する技術用語の理解と他者への説明は、中間および定期試験で評価する。
2	【A4-1】道路の新設、改良などの手法を学び、それらに関する計画・設計などの基本を習得する。		道路の新設、改良などに関する計画・設計などの基本を演習問題で提出させるとともに、定期試験で評価する。
3	【A4-4】道路の維持・管理・評価法などを理解し、問題解決に取組む方法を習得する。		道路の維持・管理・評価法など、演習問題として提出させるとともに、定期試験で評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標1～3は、中間試験および定期試験70%、レポート30%の割合で評価する。		
テキスト	「道路工学」：岸本進・日下部重幸著(工学出版)		
参考書	「道路構造令の解説と運用」：日本道路協会編(丸善)		
関連科目			
履修上の注意事項	関連科目：土質力学、数理計画学道路の新設・改良計画において、地盤支持力や土工の理論、統計・確率の理論を用いた計画や設計手法を学ぶ。		

授業計画 1 (都市交通計画学)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	概説、道路の種類、道路関係法規	道路の歴史, 役割, 最近の問題など, 本教科を学ぶ意義を理解させる。
2	交通量調査、OD調査	道路計画に必要な調査法を学ばせる。
3	交通流、交通容量	ポアソン分布について理解させる。課題を出題して提出させる。
4	交通流、交通容量	ポアソン分布について理解させる。課題を出題して提出させる。
5	交通流の流体力学的取り扱い	道路交通の渋滞現象について理解させる。プリント配布。課題を出題して提出させる。
6	交通流の流体力学的取り扱い	道路交通の渋滞現象について理解させる。課題を出題して提出させる。
7	道路構造令による道路区分、道路幅員の構成	道路構造令の内容を理解させる。
8	中間試験	
9	道路構造令による車線数、中央帯、路肩など	道路構造令の内容を理解させる。課題を出題して提出させる。
10	道路構造令による平面線形、縦断線形	道路構造令の内容を理解させる。
11	道路構造令による緩和区間と片勾配	道路構造令の内容を理解させる。課題を出題して提出させる。
12	道路構造令による片勾配のすり付け方法、曲線部での拡幅、視距	道路構造令の内容を理解させる。
13	道路の構造	道路の構造について理解させる。課題を出題して提出させる。
14	道路の舗装	道路の舗装について理解させる。課題を出題して提出させる。
15	道路の維持・修繕、付属施設	道路の維持・修繕, 付属施設について概要を理解させる。課題を出題して提出させる。
備考	中間試験・定期試験を実施する。	